

1914年 モンゴル初の電話の呼び鈴

今から96年前、フレー(現ウランバートル)にあるボグド宮殿で初めての電話が鳴った。1914年、ボグドハーン政権は初めて訪問した旧ソ連政府から2台の電話機を持ち帰った。そのうちの1台はボグド宮殿、もう1台はチンワン・ハンドドルジ外相の自宅に設置された。電話の使い方をモンゴル語・ロシア語に翻訳したサイン・ヨンハン・ナムナンスレン氏がベテルブルグ交換台を見るまで、電話機については聞いたこともなかった。

その後、電話機を使う市民の

数が増え、1921年には24世帯が使うようになった。人民革命が勝利し、全国に役所が開設されて様々な事業の拡大に伴って、1923年には100台用のMB 100交換台が設置されるに至った。さらに市民の電話に対するニーズが高まったため、人民政府の決定により1927年に300台用の新しい交換台が設置された。現在スポーツ宮殿がある辺りにフレーで初めての小学校の建物があり、ここに電報電話局が設置されていた。

世界初の紙幣 モンゴル帝国の遺産

モンゴル帝国は世界初の紙幣を発行し、人類文明に革命を起こした。13世紀、モンゴルにおける商業活動が盛んになり、金・銀・銅硬貨と紙幣が初めて発行された。インド文化科学アカデミーのロケシュ・チャンドラ総裁は、論文で「モンゴルが初めて、文字・文化をもつ大国として隣国に大きな影響を及ぼしたことは歴史が忘れることはない。モンゴルが歴史上初めて紙幣を使い始めたことで、人類の社会・経済に大きな革命をもた

らした」と記した。チンギス・ハーン時代には「スヘス」という銅貨が使われていたと『モンゴル秘史』に記録されている。

1224～1225年、チンギス・ハーンの命によってアフガニスタンにおいてアラビア文字で書かれた銅貨を使うようになった。その後、チンギス・ハーンが1227年に初めて紙幣を発行したことを中国や日本の研究者が証明している。1236年1月から、オゴディ・ハーンが紙幣を再び発行して使用された。

世界に挑戦するサッカー選手をモンゴルで

このテーマを読んでサッカーに興味を持つ青少年の注目を引いたでしょう。確かにそういう機会が訪れるのである。

それは、ドリームキャンプ、モンゴル児童保護施設が実行している「サッカーワールド・カップ - 2030モンゴル」プロジェクトの提議でサッカー国といわれるブラジルの有名なカルロス・デ・アルメイダ監督を招待し、同スポーツに関心をもち、励む青少年に機会を与えることになった。彼は、モンゴルにいる1か月の期間でドリームキャンプで暮らし、世界サッカーの技術を身に付けるコースを行い、最も才能のある3人の子供を選考し、来夏に韓国に招待するのである。選考された子供たちが、同国のジュニアズ代表と共に

夏期の練習に励み、経験を研究し、学ぶことである。当時に彼らがスポーツの技能で選考され、監督の目に当たることであれば今後に世界に挑戦する機会が与えられるのだ。

カルロス・デ・アルメイダ監督がモンゴルに訪れることになった理由は「モンゴルの子供たちは忍耐力が良く、力があると聞きました。従って、モンゴルに行ってみようと思ったのです」と説明した。彼は、7月の5日に訪れるのである。また、「サッカーワールド・カップ - 2030モンゴル」プロジェクトが実行し始めていて、2030年まで、モンゴルにサッカーというスポーツを発展させ、世界に競う選手を発見することを目標にした活動を行うという。

天気予報

4～8日西部県の一部、2～5・7～8日中央部県、東部県、8日ゴビ地域一部に雨が降る。風速は西部県で12～16m、東部県やゴビ地域で12～16mまで吹く。
7～8日西部県で夜間3～8度、日中12～17度、中央部県で夜間7～12度、日中18～23度、東部県で夜間9～14度、日中マイナス21～26度、ゴビ地域で夜間18～23度、日中29～34度の予報である。



コラム最終回

突然ですが、モンツァメ通信社と交わした1年間の契約が満了になり、日本語監修担当を交代させていただくことになりました。この1年間、読者の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。

本業の「モンゴル伝統医療普及事業」(日本財団の資金援助による置き薬を中心とする社会開発プロジェクト)で今年度5000セットの置き薬を増やして計1万5000世帯を対象とすることになりました。新しい対象地の置き薬の配置が6月20日までに終わりのよい新たなスタートです。対象郡が17郡から26郡に増えて仕事の負担だけでなく地方出張も増えることになり、校正作業が思うようにできなくなってしまいました。

私は新聞学やジャーナリズムを専門に勉強したことはありませんが、各種辞書・事典、ネット検索などを利用し、また新聞社の校閲部にいる友人の助けも借りながら今まで何とかやってきました。週末も休み返上で校正作業に当たってきましたが、なかなか思うように紙面改革は進みませんでした。それでも、この数年間全く放置されていた様々な問題点をあぶり出して取り組みを始め、多少なりとも改善できたのではないかと考えています。例えば、

(1) 翻訳記事の日本語をできる限り自然な日本語にすること。

(2) 記事の内容の矛盾をなくし、数字・データの信頼性を高めること。

(3) 訳語・用語を統一すること、などです。

その一方で、問題として認識しながらも1年間ではどうしても十分な取り組みができなかった問題もあります。例えば、

(1) 個人の仕事に頼らないための翻訳・校正・編集システムの構築。

(2) 発行部数を伸ばすための営業活動。

(3) 『モンゴル通信用語集』の編集・出版、などです。

ただ、これらの課題に対する取り組みはすでに始まっています。後任の方によって新しい方針が立てられ、スタッフの理解と協力の基礎の上に良い形で継続されていくのではないかと期待しています。後任を引き受けて下さるのは、東京外大モンゴル語科を卒業され、これまでも紙面に対して様々な助言をいただいた方です。

今後は読者の一人として『モンゴル通信』を見守っていきたいと思っています。読者の皆様、短い間ではありましたが色々お世話になりました。日本人会その他の場で皆様とお会いできる機会もあらうかと思ひます。

今後も『モンゴル通信』共々よろしく願いいたします。本当にありがとうございました。

(内田敦之)

F I F Aワールドカップが観戦できるパブ

6月11日～7月11日 毎日19:30、22:00、2:30 (生中継)

1階 : 入場無料

2階 : 個室 15000Tg～25000Tg

屋外席 : 4000Tg/人

デトロイト・アメリカン・パブ (tel:320033)

6月11日～7月11日 毎日19:30、22:00 (生中継)

MB バブレストラン (tel:326741)

6月11日～7月11日 毎日19:30、22:00、2:30 (生中継)

個室 : 10000Tg～15000Tg/時間

リバーサウンド (tel:320444)

6月11日～7月11日まで毎日19:30、22:00、2:30 (生中継)

石庭 (tel:321334)

6月11日～7月11日 毎日19:30、22:00、2:30 (生中継)

モンゴル銀行の為替レート (2010年7月1日)

	円	15.06
	米ドル	1380.68
	ユーロ	1696.03
	ルーブル	44.26
	元	202.05
	ウォン	1.14